

『変貌する中国・広州及び深圳地域の経済・産業動向について』

日本貿易振興機構（JETRO）
農林水産・食品部米川 拓也氏

【はじめに】

米川と申します。よろしくお願いたします。
本日は貴重な機会をいただきまして、ありがとうございます。私はこの4月末まで約4年間、中国の広州、JETRO 広州事務所に駐在をしておりました。

今回は、広東省の最近の状況について話をさせていただきます。

本日の資料ですが、大きく分けて、この4つのテーマに分けています。一つ目が広東省全体の政治・経済動向。二つ目が広東省の日系企業の状況。三つ目に広東省の自動車産業。広東省の産業でいうと、やはり自動車というのが中心になっています。日系では、トヨタ、日産、ホンダや、その関連の部品メーカーも集積をしています。四つ目はこれは参考として入っていますが、最近の新しい動きとして、珠江デルタプラスワンとイノベーション、この二つを挙げております。



【1.広東省の政治・経済動向】

この図は中国広東省の地図を載せています。広州や広東省に行かれたことがある方はどのくらいいらっしゃるでしょうか。左側が中国全体の地図、広東省はこの一番南のところに位置しています。香港やマカオと隣接してまして、高速鉄道で2時間強あれば香港に着きます。東京から山梨ぐらいの距離感で、香港と広州が行き来できるということです。この広東省を拡大したのが資料右上の地図になります。広東省の各市の名前を挙げています。真ん中あたりに広州市、広東省の省都があります。日本という県庁所在地が広州というイメージになります。右下が深圳です。深圳のすぐ隣りに香港、この左側にマカオがあります。後ほど少し詳しくお話しますが、市名を黄色で示しているところが、広東省の珠江デルタ地域のエリアです。

次は、広東省の政府要人に関するスライドを載せています。広東省書記の胡春華（こ

しゅんか) 氏です。胡春華氏の前任の書記は汪洋 (おうよう) 氏です。

次のスライドは広東省のマクロ経済の主な指標を載せています。いくつか掻い摘んでお話をさせていただきます。常住人口の欄。広東省の人口は1億999万人。中国全体13億人の約8%を占めます。広州市の人口は1,404万人で広東省の人口の12.8%を占めます。深圳市は1,191万人で、広東省の人口の10.8%を占めます。人口規模としては広東省全体が1億人なので日本と同じぐらいです。広州・深圳とともに1,000万人を超えるため東京と同程度です。もちろん中国は所得格差が激しいので単純比較はできませんが、人口規模だけ見ればそれだけのポテンシャルがあるという地域になります。

その下の欄に、GRPを載せてあります。地域別のGDPですが、広東省のGDPが7兆9千億元。中国全体の約1割を広東省の経済が占めています。広東省経済のうち、広州市が占める割合が24.7%、深圳市が24.5%です。中国全体の約1割が広東省で、その広東省経済の約半分は広州と深圳で占めているという形になります。先ほどお話しした珠江デルタ地域は、広州・深圳のほかに中山、珠海、仏山といった9つの市で構成されていますが、広東省全体のGDPの約8割を占めるなど珠江デルタ地域に経済が偏っています。

中国は「世界の工場」とよく言われましたが、広東省は中国の中でも特に製造業が集積している地域になります。ただし、今は第三次産業が発展しており、広東省のGDPの半分以上が第三次産業で構成されています。消費小売総額も広東省が中国全体の約1割を占めています。

一方、貿易に関しては広東省が占めるウエイトが非常に大きく、中国全体の25.9%です。製造拠点なので海外から部材を輸入して組み立て、それを第三国に輸出する、あるいは中国の中で売るといった形で、貿易は非常に発展した地域になります。広東省の貿易額のうち4割くらいは深圳で占められています。

次に示す図は他の国・地域と中国の各省のGDPを並べたものです。広東省GDPというのはこの辺りに位置づけられており、スペインやメキシコと同じぐらいの経済規模になります。「中国経済」、「中国経済」と言われますが、1つの省だけで1つの国・地域と同じぐらいの経済規模があるのが中国になります。

こちらの資料は、広東省経済の一人当たりGDPをみたものです。広東省は今申し上げたとおりの経済規模としては中国で一番大きい省ですが、一人当たり直すと、第8位です。

左下に分布図を載せていますが、右側に行くほど人口が大きく、上に行くほどGDPが大きくなります。広東省はGDPも大きいけれど人口もかなり多いということで、一人当たりGDPは少なくなります。一人当たりのGDPが大きいのは天津、北京、上海などです。

次の資料は、広東省経済の中国全体に占めるウエイトを円グラフで表したものです。先ほどお話した通り、GDP は中国全体の 10.7%です。固定資産投資は 5.4%、消費は 12.5%です。対内投資も 13.5%と大きいウエイトを占めていますが、去年は前年比で 13%程度減少しています。

こちらには、いくつかの業種に関して、生産台数やランキングを載せています。広東省は携帯電話などでは中国国内で一番製造している地域になります。フォックスコン、華為（ファーウェイ）とか ZTE など、こういったメーカーが各地にあります。最近だと OPPO（東莞）というメーカーのスマホがとても売れています。また、テレビやエアコンなども広東省がかなりつくっているということです。また、乗用車も生産台数では第 3 位で、非常に大きい規模になっています。

次の資料は広東省の消費に対する傾向を載せています。中国の中でも広東省の人は消費に積極的だとよく言われます。広東省の中でも特に広州の人は食に積極的であると言われてしています。

消費の中でも飲食やお酒の割合が約 33%。『食は広州にあり』という言葉が有名ですが、食に対するこだわりというのが強いと言われてしています。

資料の下の表は、市別に並べたものです。広州、深圳のどちらも可処分所得では上海・北京には及ばないぐらいの水準ですが、消費には積極的なのが分かります。広州は約 33,000 円で、上海や北京よりもお金を使っています。

一方で、商売人気質で費用対効果を重んじる、とも言われています。商品にしる、食べ物にしる、この値段でこの品質や質ならいいと、費用対効果を非常に重んじ、納得できれば高くてもお金を使うと言われてしています。

こちらのスライドは GDP の少し細かいものを載せています。棒グラフが経済の規模、折れ線グラフが前年比の伸び率を示しています。見ての通り経済規模としては右肩上がり。前年比の伸び率でいうと、やや下がっているといったところですが、中国政府としても昔のように経済成長ばかりを追うのではなく、安定成長を目指すという方針を掲げています。日本では中国経済が減速し、成長率が 7%に落ちたといった報道が目立っていますが、これだけの経済規模の国、一つの省が一つの国と同じぐらいの規模を持っている国なので、その経済が前年比 7%成長しているというだけで、一年で一つの国ができるぐらいの規模は拡大していると考えてよいと思います。

我々を含め、現地に駐在している人間は、比較的安定して成長していると思っている人が多いと思います。

こちらのスライドは消費を細かく載せたものです。これも先ほどの話と重なる部分もありますが、消費小売総額としては拡大していますが、伸び率は緩やかに落ちています。GDP と同じイメージです。消費に関しては、伸び率は落ちてはいますが、2016 年は前年比 10.2%で増加しています。

こちらには円グラフを二つ載せていますが、輸出入先とそのシェアを載せています。広東省の輸出において日本が占める割合は 3.8%であり大きくはありません。輸入に関しては日本が約 10.0%。1 割くらいは占めています。輸出に関する統計は仕向地ベースで出る形になりますので、例えば香港を経由して、日本へ輸出した場合は香港の統計に含まれます。そういった意味でも香港というのはいやほやウエイトが大きくなります。

輸入に関しては原産国ベースで数値が取れるので、日本製のものを日本と計上されています。昔に比べると少なくなりましたが、部材を日本からもってきて広東省で組み立てて完成品にして、中国国内、あるいは第三国で売るというモデルが、今も結構なウエイトを占めます。広東省では元々、加工貿易が非常に盛んでした。よく来料加工などと言われますが、広東省で安い人件費で物を作り、第三国に売るというのが多かったのですが、最近は人件費やコストが上がっている中で、そういったものが少しずつ減ってきており、初めて一般貿易の比率が加工貿易を上回ったというのが去年のニュースとなりました。

次のスライドは対内直接投資を載せています。香港が投資元として大きいです。これも香港経由で投資した場合、香港に計上されるので、大きくなっている面があります。日本は第 5 位ですが前年比で 27.5%減。日本からの広東省への投資は製造業の投資がほぼ無いに等しいほど少なくなっている。私も 4 年間駐在している中で、「初めて広東省に拠点を造ります」という製造業はほとんどなかったです。既に広東省に拠点を持ってモノをつくっている企業が拠点を大きくするという投資はありました。ただ初めての拠点を製造業で、というのはほとんどありません。一方サービス産業の投資は多々ありました。こういった動きは今後も続いていくのではないかと思います。

【2.広東省の日系企業の状況】

次の資料は広東省の拡大した地図です。各市に日系企業や日本人がどのくらいいるのかを示しています。この真ん中、広東の中心になる広州市に関しては日系企業数が 522 社、日本人が 7,500 人ぐらいいます。広州に次ぐ都市の深圳は日系企業が 428 社、日本人が 5,400 人強です。ここに示されているのは商工会の登録ベースになります。広東省はこれだけ広くて企業も多いので、市ごとに商工会があり、広州の商工会、東莞市の商工会、深圳の商工会、という形で市ごと商工会があります。更に広州や深圳に関しては分科会も置かれており、サービス分科会、製造業部会という形に分かれています。このような商工会に登録している企業数をこちらに載せています。広東省全体で日系企業は商工会の登録ベースで 2,000 社くらい。商工会に入っていない企業もちろんあり、それを含めると広東省には大体 3,000 社くらい日系企業がいると言われています。

他の国でいうと、トルコなど中東や南米などの国だと一つの国で日系企業は 300～400 社くらいだったと思います。ベトナムも注目されていますが、ベトナム全体で 2,000 社弱だったと思います。そういった中で広東省だけで日系企業が 2,000 社 3,000 社、集積しています。日本人は広東省全体で 18,000 人とか 19,000 人ぐらいいます。その大部分がこの広州・深圳を中心にこの珠江デルタ地域に集まっています。ちなみに日系企業と日本人が大きなウエイトを占めるのはやはり自動車関係ですね。トヨタ、日産、ホンダのビッグスリーが全て広東省広州に出ているので、その部品メーカーも集積しており、その関係の企業が多くなっています。

この次のスライド、これは我々JETRO で毎年、中国やアジアに進出している日系企業に対して行なっているアンケート調査の結果を抜粋したものです。中国に出ている日系企業に「今後中国ビジネスを 1～2 年間の間にどうしますか」、「更に拡大しますか」、「現状維持ですか」、あるいは「縮小・撤退ですか」、という設問の結果です。2016 年の直近の調査を最上段に、その下に 2015 年 2014 年と 3 年分の調査結果を載せています。一番下に広東省があります。

中国全体からお話させていただきます。直近の調査では、中国全体の日系企業で「中国ビジネスを今後拡大します」という企業は全体の 40.1%。昨年の 2015 年は 38.1% だったので少し回復したというのが去年の調査結果です。

ただ、更に 1 年前の 2014 年と比べると、2014 年は 46%あったのでやはり拡大意欲というのは落ちています。ここには載せていませんが 2013 年や 2012 年は拡大意欲が大きい傾向がありました。徐々に中国への拡大意欲というのは落ちています。特に 2012 年に尖閣の問題が起こって以降、落ち気味になっています。ただ拡大意欲が落ちたからといって、すぐに中国撤退かということ、そういうわけではなくて現状維持が増えています。昔のように経済が毎年のように前年比二桁成長して売り上げも伸びてという状況ではないので、とにかく拡大ではないが、中国経済が大事なことには変わりはないため現状維持をしながら引き続き取り組んでいきます、という企業が多いです。それがこの調査結果にも出ていると思います。

この下は省別に載せていますが、広東省では、「拡大します」という企業は 26.9% (2016 年) です。中国全体では拡大意欲が 40%あったのが、広東省では 26%しかなかったのは非常に残念でした。現状維持は確かに大きいのですが、縮小・撤退も約 10%で、中国全体に比べると、2016 年の調査では広東省の企業は消極的な結果が出ました。

次のスライドは同じアンケート調査の結果ですが、「2016 年の営業利益の見込みはどうか」という設問の結果です。中国全体の日系企業では、「今年は黒字見込みです」と回答した企業が全体の 64.4%いました。昨年の 2015 年と比べて黒字の割合が少し大きくなったということです。企業規模別で見ると、大企業で黒字の割合が大きくなっています。これを先ほどと同じように省別で見ると、広東省は、黒字の割合が

67.2%あります。大企業では 72.9%が黒字と回答しています。中国全体よりも広東省の企業の方が「黒字です」という回答が高くなりました。

黒字が多いのに拡大意欲は低いという矛盾したような結果になったのが 2016 年の調査なのですが、これは何かというと調子がいいところと悪いところが非常にはっきりしているということです。広東省の企業でどこが調子が良く、どこが調子が悪いのかを大きく分けたのがこちらのスライドになります。調子がいいのは内需型の製造業です。自動車産業が一番良い例になります。先ほど申し上げたとおり元々広東省の企業というのは安い人件費を活用して、部材などを輸入して組み立てて第三国に輸出することが多かったのですが、中国の市場も大きくなっていて、皆さん内販に取り組んでいます。まさに自動車などがそうですが、広東省で造ったものを中国の国内で売ります。内販がうまくいっている業種や企業は非常に好調です。

同じく内需型の非製造業、サービス産業なども調子が良いです。広東省でいうとイオン、イオンモール、ユニクロ、COCO 壺番屋など飲食業も結構進出しています。こういったところは内販、内需向けの産業になり、一般消費者も所得が伸びているため、売りに上げに還元されています。

スーパーのイオンは元々出店していたのですが、イオンモールは 1 年半ほど前に初めて広東省にオープンしました。広東省広州市の番禺（バングウ）区というところですね。

一方で調子が悪いのは外需型の製造業。資料は大手企業と中小企業で分けています。人件費やコストが上がる中で、今までのように現地の安い人件費を活用してモノを造り、それを第三国に輸出するという外需型の製造業は非常に苦しい状況です。特に労働集約型の産業は苦勞されています。調子が良いところと悪いところが分かれてしまっているというのが今の状況です。

ちなみに外需型の製造業も最近では中国の内販を拡大しなければいけないことを意識しています。私どもの JETRO の事務所では、日頃からいろいろな問い合わせを受けるのですが、やはり最近「内販をやりたいのだけれど、どこかいいお客さんを紹介してくれないか」、「いい展示会がないか」という内容が増えています。

【3.広東省の自動車産業】

本日の 3 つ目のパートで自動車産業の話をさせていただきます。

日産、ホンダ、トヨタの日本のビッグスリーが進出しているのが広東省です。いずれも広州市です。日産は花都、ホンダは黄埔、トヨタは南沙というところに進出しています。いずれも 2000 年前後ぐらいに進出し、その後部品メーカーが集積をしていきました。広東省は日系のこの 3 社が非常に強いエリアですが、ここ数年欧米系のメーカーも出てきています。2013 年フォルクスワーゲンが佛山に拠点をつくりました。同

じく 2013 年に深圳にプジョーが拠点をつくりました。また、2016 年には広州の番禺というエリアにフィアットも拠点を立ち上げて車をつくり始めています。自動車産業がますます集積をしています。

各社の概要を載せた資料をご覧ください。生産能力を一番右にあります。例えばトヨタの生産能力は年間 38 万台ですが、これを 48 万台に拡大すると発表されています。ホンダも 48 万台から 2015 年には 12 万台増やし、60 万台になっていますが、それを更に将来的には 72 万台に拡大すると発表しています。ワーゲンも 2013 年に 30 万台と立ち上げたばかりなのですが、60 万台にするとのこと。各社共に非常に積極的です。先ほども少しお話ししましたが、製造業で初めて広東省に拠点をつくるという企業は少ない一方で、既に拠点がある企業が拡張するという投資は非常に活発です。

ご存知のとおり、中国では完成車メーカーは独资では出られないことになっており、基本的に現地企業との合弁になっています。トヨタは広東省では広州汽車という自動車メーカーとの合弁で広汽トヨタというブランドです。日産は東風日産。ホンダは広汽ホンダという形です。フィアットも広州汽車との合弁。広州汽車は広東省広州市で最大の自動車メーカーになります。

広汽トヨタ、東風日産、広汽ホンダの販売台数を示したものが次のスライドになります。

ご覧になってお分かりの通り、販売台数としては右肩で上がっています。これは先ほどの GDP や消費と同じく、規模としては右肩上がりです。折れ線グラフである伸び率でいうと、少し乱高下をしていますが、直近は大体プラス成長を維持しています。2012 年に前年比の伸び率が大きく落ちています。これは例の尖閣問題があったときで、確かに、日系車は打撃を受けました。しかし、翌年には V 字回復をしました。中国の中でも北の方、北京などに比べると、南の方の広東省では影響がそれほど大きくなかったと言われています。最近ではホンダが非常に調子が良く、2015 年は前年比 31% の伸びです。最近、若者向けの SUV が伸びています。元々黒塗りのセダンや高級っぽいイメージのある車が非常に人気だったのですが、最近は所得も上がり、志向も多様化をし、SUV のような車種が売れるようになってきています。中国全体でみると、SUV が一番伸びています、格好良さとか趣味とか、そういったもので車を選ぶ人が増えています。こうしたモデルでヒットを出しているホンダや日産は調子が良いと思います。

広州汽車の独自ブランドでトランプチという車が最近、非常に売れています。広州の街中を走るとこの車をたくさん見かけます。広汽トヨタブランドや広汽ホンダブランドと比べると価格も少し安いです。同じような性能で同じような見た目で、価格が少し安いということで、広州汽車のブランドが最近是非常に売れています。

次のスライドは、今度は販売ではなく、生産のデータを載せています。中国全体の

自動車生産台数のうち、各地域でどのくらいの車を造っているかというものです。中国全体での自動車生産は、昨年は約 2,400 万台です。

各地域での生産量では、中国で一番車を造っているのは重慶市、二番目は上海、三番目が広東省になります。重慶は長安汽車の本拠地で、フォードが車を多く造っています。上海には上海汽車という現地メーカーがあり、合弁でGMやワーゲンなどが車を造っています。三番目が広東省です。先程申し上げたとおり、広東省はワーゲンやプジョーとかフィアットが最近工場を立ち上げ増産し始めているので、今後はもっと上に行くかもしれません。

この伸び率で見ると湖北省など内陸のエリアが非常に伸びています。元々上海、北京、広州の沿海部が中心だったのですが、最近是中国の内陸部が発展してきています。自動車の生産拠点としても内陸部の湖北省や四川省などに欧米系のメーカーが進出し工場を立ち上げるという動きもあり、内陸も自動車生産拠点として大きくなっているのではないかと思います。

【4.参考】

① 珠江デルタプラスワン（東西北部&ASEAN）

最後は参考として二つ入れています。一つは珠江デルタプラスワンについてです。

広東省は先程来申し上げていますが、製造拠点が集積した地域で安い人件費を使ってモノを作り出すのが特徴でしたが、最近産業が高度化し、労働集約産業を中心にやはり広東省だとビジネスを維持するのが難しいという企業が出てきています。そういった中で、いろいろ注目される一つが ASEAN かと思いますが、広東省の中の東西北部というエリア、珠江デルタ以外の地域も一つ新しい製造拠点として注目されています。

次のスライドは GDP と人口の規模を載せています。ASEAN、広州、広東・香港・マカオを足したエリア、そして上海のエリア、北京を載せています。広州、広東・香港・マカオ辺りの経済規模・人口規模では ASEAN 全体と比べると小さいのは確かなのですが、沿海部、上海や北京の辺りを全部足すと ASEAN より大きくなります。経済規模としてそういう位置づけになっていきます。

次のスライドは、中国の各省と、ASEAN の国を GDP の規模や人口規模で比較したものになります。広東省や江蘇省は経済規模は非常に大きいです。人口でいうと広東はフィリピンなどと同じくらいの人口規模になります。ASEAN 全体と比べると広東省の経済規模は小さいかもしれませんが、一国と比べると広東全体の方が大きい。冒頭で GDP を国で並べて説明しましたが、広東省、江蘇省など一つの省で ASEAN 一国分よりも大きい経済ということになります。

この次のスライドは今度は省ではなくて市で表したものです。広東省の中の広州市

だけで表しています。こちらをご覧くださいと分かるとおり、経済規模でいうと広州や深圳の経済はマレーシアやフィリピンと同じくらいの経済規模になります。

次のスライドは、ASEAN ではなく広東省の東西北部エリアという地域について説明いたします。広州・深圳・中山などのエリアがこの珠江デルタ地域です。広東省のGDPの約8割はこの辺りに固まっており、経済や産業の中心はここにあるというところでは。

一方で、この珠江デルタ地域を除いた周りの東西北部、南を除き東西北部と呼んでいますが、このエリアは経済の発展や所得といった面で、この珠江デルタ地域と比べて遅れをとっています。同じ省内で格差ができてるのが今の状況になります。一人当たりGDPでは7倍ぐらいの差があるというところでは。

次に、広東省に占める東西北部のウエイトを表したものをご覧ください。珠江デルタと東西北部で比較すると、人口は約半分ずつぐらいです。ただGDPでは今申し上げたとおり8割ぐらいが珠江デルタに固まっています。工業も8割が珠江デルタに、消費も7割以上が珠江デルタに、という形で同じ省内でも珠江デルタ地域にほとんどの経済産業が固まっているのが分かります。

そういった中で広東省の政府としては、広東省全体として、バランスよく発展させていくことを目指しております。東西北部の発展に向けて交通インフラの整備やあるいは産業園区を作るといったことも進めています。最近高速道路が通り、珠江デルタから1～2時間で行けるところも増えるなど、政府を挙げて東西北部を発展させていこうとしています。

東西北部は日系企業の投資先の選択肢の一つとして考えられるかと思えます。珠江デルタ地域に比べると人件費が概ね3割くらい安いといわれています。インフラが整備されているので、例えばこの辺りに拠点を持って、広州のお客さんへ高速道路を利用し、2時間ぐらいで運べるといった形で投資先としての優位性が高まっています。

次の資料は、広東省の東西北部とASEANなどの賃金の数字を比較したものです。一番高いのが深圳です。深圳や広州は人件費が高いですが、東西北部エリアはジャカルタなどよりも人件費が少し安いということになります。本当に単純な労働集約の企業なら人件費が安いからASEANに移転するのか、あるいは東西北部に移転で済むのか、といったことで一つの選択肢となります。

② 企業によるイノベーション（深圳市）

最近、広東省の中でも深圳のイノベーションが注目されています。我々ジェトロ広州にも深圳のベンチャー企業が見たいということで視察に来られる日本の方が最近増えています。日本のいろいろな経済誌などでも深圳が取り上げられることが増えています。この深圳に関して簡単に説明をさせていただきます。

こちらは、広東省の中で各市ごとの法人数を載せた資料です。細かく見ていただく必要はありませんが、深圳は民間企業の数が非常に多いというのを示しています。

次のスライドは各業種ごとにどういった業種が各市に集積しているかを示したものです。通信関係の企業の48.9%が深圳に集積しています。先程申し上げましたが、華為（ファーウェイ）やZTEが深圳にあります。

ちなみに佛山市もバランスよく産業が集積しています。金属とかゴムとかプラスチック産業が佛山市に多く、広東省のトップを占めています。

次のスライドは各都市の起業、新規登録企業数を示しています。深圳と上海、北京、広州を比較すると、法人の新規登録数が深圳は断トツで多くなっています。元々中国人は日本に比べると起業家精神が高いと言われますが、その中でも深圳は起業の割合が高いです。

深圳でのベンチャー企業の業種で一番多いのは、卸や小売などです。次に多いのが情報通信やソフトウェアになります。通信分野は2012年には2.7%しかなかったのが2016年は11.9%に拡大しています。携帯電話やその関係の通信設備というのが集積をしている地域にもなり、企業数の中でもそういったところが多いのがこの深圳市の特徴です。

代表的な深圳の企業というと、有名なのはZTEや華為（ファーウェイ）です。今は日本でも華為の携帯がたくさん入ってきますが、華為も深圳です。自動車という有名なのはBYDですね。深圳で電気自動車などを多く造っています。また、中国版のLINEであるWeChat（ウィーチャット）を手がけるテンセントという企業もあります。

最近ではベンチャーで非常にユニークな企業や、あるいは一気に拡大した企業が出てきています。一番よく話に挙がるのがDJIという会社です。民生用のドローンの会社ですが、ここは非常に成長が早く、今世界シェアの7割以上を占めています。よく日本から視察で来られる方もDJIが見たいとの依頼が多いです。

なぜそんなに深圳でベンチャー企業が発展するのかという理由も含めていくつかまとめます。深圳は元々製造業の地域で、日系企業やいろいろな外資系企業の下請けで部品の組み立てなどを行っており、部品などの市場（いちば）も集積をしています。ですので、ベンチャー企業で、例えばロボットの何かベンチャーを立ち上げるとか、通信設備のベンチャーを立ち上げたい方にとっては、試作品を作るための部品といったものが深圳だといくらでも手に入る環境というのが一つあります。シリコンバレーだと1、2年かかるところが深圳だと3ヶ月から半年で出来るとも言われています。少し街を歩くと部品などの市場（いちば）が非常に集積しております。プリンターやOA機器など、小さな部品の産業も集積しています。部品が安く、いくらでも手に入るため試作品が作りやすいのです。また、そういったベンチャー企業を支援する機関や、

政策の後押しがあるというのもあって、深圳がベンチャー企業の拠点として発展し、注目を集めているというところがあります。

以上で説明を終わらせていただきます。ご清聴いただきましてありがとうございました。

(平成 29 年 7 月 21 日開催)